

社 明 み や ぎ の

(社会を明るくする運動宮城野区推進委員会)

会報 第24号

令和4年1月1日

発行責任者
社会を明るくする運動
宮城野区推進委員会
委員長 小松 啓祐
事務局：宮城野区
保健福祉センター
家庭健康課

社明運動の原点から

社明宮城野区推進委員会
委員長 小松 啓祐



新年明けましておめでとうございます。昨年の「社会を明るくする運動」の活動にご協力を賜り心から感謝申し上げます。宮城野区の「社会を明るくする運動」では教育機関連携事業として区内の小中学校で啓発活動を行っています。コロナ禍のために大きな制約を受けていますが、できる限りの活動を続けております。

「社会を明るくする運動」の原点です。近年、少年による刑法犯の検挙数が減少傾向にある中、特殊詐欺や薬物（特に大麻）事犯での検挙数が増加しており、心配されるところです。大人に利用されて犯罪に手を染めてしまう少年がいます。そこには本来守るべき大人の姿が見えませんが、子どもたちが健やかに育つ社会でなければ、健全な社会とはいえないでしょう。不登校の小中学生の数が令和二年度に過去最多を記録したことです。複数の要因が複雑に絡まって状況を把握するのが難しいことが確かですが、コロナ禍という特殊な状況での社会的不安が、子どもたちの心にも大きく影響を与えているのは間違いないでしょう。社会がどのような状況であっても、子どもたちが犯罪や非行に走るような状況でないよう、守っていくのが大人たちの責任です。今年も「社会を明るくする運動」を進めてまいります。どうぞご協力の程宜しくお願い申し上げます。

「社会を明るくする運動」とともに

宮城野区長 吉田 広志




あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染拡大の影響がまだ残る中におきましても「社会を明るくする運動」の推進に献身的に取り組んでこられた、昨年も大規模な街頭広報、講演会、演奏会等の活動は叶いませんでしたが、感染防止対策を講じ、各地区において標語コンクールやチラシの配布等で啓発活動に努めておられたと伺っております。

宮城野区といたしましても「ともに生き、支えあうまち」を基本理念に、地方再犯防止推進計画が内包された「せんだい支えあいのまち推進プラン」に基づき、地域で様々な課題を抱えて生きている方々、誰一人も取り残すことのない包括的な地域の構築に職員一丸となつて努めて参ります。本年四月改正少年法が施行されます。改正に伴い少年犯罪の更生等で、今まで以上に推進委員の皆様との連携が必要となります。区民の皆様が安心安全に暮らせるように今後もご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後に、皆様の活動に改めて深く敬意を表し、益々のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

社明運動

令和3年度
一年間のあゆみ

- 5月 宮城野区推進委員会協議会
- 6月 宮城野区推進委員会役員会
宮城野区長に内閣総理大臣
メッセージ伝達
- 7月 「社会を明るくする運動強調月間」
社明フェスティバル・みやぎ(規模縮小のため不参加)
仙台市青少年健全育成講演会(中止)
宮城野中学校にて
講話及び標語コンクール表彰(原町地区)
啓発物品及び犯罪予防広報リーフレット
- 8月 岩切小中学校にて講話及び啓発物品による啓発活動(岩切地区)
楽天生命パーク正面玄関前にて街頭啓発活動(榴岡地区)
クリーン大作戦IN岩切にて
啓発活動(岩切地区)
- 10月 全国地域安全運動仙台東地区出動式
(規模縮小のため不参加)
- 11月 「全国青少年健全育成強化月間」
仙台市児童・青少年健全育成大会
東仙台地区小中学校にて啓発物品及びチラシ
による啓発活動(東仙台地区)
幸町市民センターふれあいまつりにて
広報チラシによる啓発活動(幸町地区)
- 3月 宮城野区青少年健全育成講演会(予定)



“社会を明るくする運動” すべて国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

って何？

原町地区の

社会を明るくする運動

社明原町地区推進委員会

会計 鈴木 信和

原町地区推進委員会は、保護司七名、民生・

児童委員協議会一名、更生保護女性会二名、BBS会二名の十二名で構成されており、B

今年度の主な活動は、七月十三日に原町小学校を訪ねて、絵本「コウくんときいろいろいはね（コウ君と黄色い羽）作：日本更生保護協会」の読み聞かせを行いました。この絵本は「ごめんなさい」と謝る大切さを伝えていきます。また、七月十六日には宮城野中学校にて、社会を明るくするための講演を行いました。更に、先生方のご協力のもと、両小中学校の生徒たちから社会を明るくするための標語を募集しました。推進委員会の推薦により最優秀賞標語二作品と優秀賞標語四作品を決定し、表彰しました。ここに今年度の最優秀賞標語を紹介します。



宮城野中学校最優秀賞標語

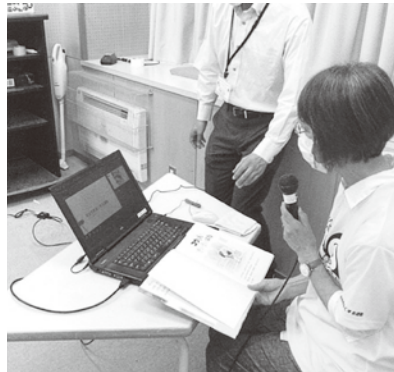
「あるんだよ 君の居場所と 生きる価値」

原町小学校最優秀賞標語

「ちよっとした 一歩一歩の行動が 社会の一歩」

改めてこの紙面をかりまして、両小中学校の校長先生はじめ関係された先生方に感謝申し上げます。

私たち一人ひとりには微力ですが、原町地区の他団体と協力し、このような活動を通して原町地区の犯罪や非行が少しでも減少し、明るく安心安全な原町地区になるよう今後も頑張っていきたいと思えます。



自分たち「こできる」じやを

仙台市立鶴谷中学校

校長 菅野 勝紀

日本は他の国と比較して犯罪発生率が低く、安心して暮らせる国だとよく言われます。その背景には様々な要因が挙げられますが、十二年目を迎える「社会を明るくする運動」が果たしてきた役割も大きいと思います。社会を明るくする運動仙台市宮城野区推進委員会の皆様には、日頃より犯罪や非行の防止に深く気を配っていただき大変感謝しております。犯罪や非行を防止する上で、地域社会が明るく元気であることは不可欠であり、私たち鶴谷中学校といたしましても「自分たちの立場でできること」を考え、実行していかねばなりません。

一昨年来の新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、なかなか地域に出ていくことは難しいですが、生徒たちの「地域のために」という意識は高く、年に二回、学区の小学生と合同で交差点などに立ち、元気な挨拶で地域を明るくしようと頑張っています。また、落ち葉の季節には「クリーンプロジェクト」と称して落ち葉拾いも実施しています。

これからも地域に明るさと元気を届けるべく、自分たちにできることを考え、実行できる生徒たちを育てていきたいと思えます。



「社会」ってなんだ？

社明高砂地区推進委員会

委員長

郷家

勤

今、この原稿を書いている時、新型コロナウイルスはほぼ収束したように見えます。皆さんのお手元に届いた頃にも、収束が続いたままであることを願っています。

この二年間、私たちは見えないコロナと悪戦苦闘を繰り返してきました。その中で有効な予防対策と言われているのがソーシャルディスタンス「社会的間隔」ですが、その「間隔」のイメージを定着させるために「社会」という言葉が使われたのはなぜでしょうか。

私は「社会を明るくする運動」に長年参加してきましたが、その場合の「社会」に一番近いと感じているのが「寄り添う」という言葉です。どちらかと言えば「密」に近い感覚で、困っている人と手を差伸べたいと思っている人をつなぐ活動をしてきました。二つの気持ちをつなぐと言っても、どちらにもそれぞれに生活があり、感情があるのでなかなか簡単にはいきません。それでも直接会って話をすれば、どこかに糸口が見られ、それが喜びの瞬間になるということが多々ありました。

「社会的距離」を取ることに抵抗感がなくなり、それでもやっていけると思う人が増えるのに、2年という時間は十分あったと思われると思います。それでも、コロナ収束後の新しい社会の

「社会的距離」は、やはり声を聴ける距離、寄り添うことのできる距離、気持ちを繋げる距離であるよう、今後も活動を続けていきたいと思っています。

コロナ禍での活動から

社明東仙台地区推進委員会

会計

熊谷やえ子

一昨年より続く新型コロナウイルスは、収束の兆しもないまま昨年も自粛生活の日々で、地域の行事等も中止。学校の行事は感染対策を十分に配慮され、児童生徒たちの活動の場を思い出づくりのため実施して下さいました。マスクは必需品で、給食時は友だちとお喋りしながらの楽しい時間ではなくなりましたが、緊急事態宣言の中でも毎日通学して勉強したり、遊ぶことができ嬉しく思いました。

さて当地区社明運動は、コロナ禍前は毎年十一月に近隣六校の協力をいただき、「合唱とブラスバンドの集い」と題し大イベントを行なってきました。東仙台中学校体育館を会場に、児童生徒や保護者、地域の方々老若男女を問わず総勢五〇〇名程が集い有意義な時間を共有。今年度は感染者数も減少してきたので実施の方向で役員で検討しましたが、やはり感染予防を一番に断念致しました。そこで東仙台地区の小中学校にチラシとクリアファイルを配り、犯罪と非行防止の啓発活動を行ないました。安心して生活できる地域づ

ひまわり

—子どもの頃から、大人になっても集える場—

榴岡児童館

館長 齋藤 純子



児童館を指定管理して十四年、途中から館長を兼務し、この現場に携わり核心的に分かった事があります。仙台市の児童館は、子ども

ら誰でも来館できる児童福祉施設であることはご存じの通りですが、子どもが輝くためには、親も心身ともに元気でいることが重要である事、この両輪を支えるのが児童館であり、根っこには地域コミュニティの存在が不可欠であるという事です。子どもたちが大人になっても立ち寄ることができ、家族一人ひとりとつても、児童館が大切な心の拠り所となるよう、地域の一員としてインクルーシブな場所づくりを目指そうと思えます。

くりを目指し、また未来を担う子どもたちが健やかに成長できる環境を整えるのは大人の役目だと思います。今年はマスクを外し、活気ある子どもたちと楽しい時間を共有できま

「地域との関り」

仙台市立幸町中学校

二年

嶋崎 しまざき

結衣 ゆい

私たち幸町中学校は、地域との関わりをととても大切にしています。ボランティア部の活動や、夏は毎年地域清掃を行っています。

地域清掃では、各部活違う方向へ向かい、ゴミ拾いを行います。私が所属しているバドミントン部は、ジョイフル方面のゴミ拾いをしました。普段から掃除をしていて綺麗な所もあれば、ゴミが沢山溜まっている所もありました。最初は早く部活したいと言っている人もいましたが、皆でやっていくと私たちが心の中もすっきりし笑顔になりました。ゴミ拾いが終わり、学校に戻ると地域の方々に笑顔で「ありがとう」と言われました。それを聞いてやって良かったなと思います、とても良い経験になりました。

このような地域の関わりは皆を笑顔にします。この笑顔を守るために私たち幸町中学校は、これからも地域との関わりを大切にしたいです。

開校記念式代表の言葉

仙台市立宮城野小学校

六年

荒井 あらい

智裕 ともひろ

六年

大和田 おおわだ

翠 みどり



今年で宮城野小学校は、六十六周年をむかえます。僕の祖父と父もこの宮城野小学校を卒業しました。



祖父の卒業アルバムを見せてもらうと、一人一人の顔写真はなく、色も白黒でクラス写真しかありません。カラーではないことに時代の変化を感じました。今も歌われている「若萩児童会の歌」は、父が五年生の頃に、創立三十周年を記念して作られ、次の年からは若萩まつりが行われるようになったそうです。学校にはたくさんさんの歴史があるのだと感じました。今後も地域の一員として、宮城野小学校や地域が明るく元気になるようにしていきたいです。

(荒井 智裕)

(大和田 翠)

受賞おめでとうございます

○第七十一回宮城県推進委員会委員長感謝状贈呈者

- 仲嶋 一雄 様 (宮城野地区)
- 佐々木 剛一 様 (鶴ヶ谷地区)
- 遠藤 節子 様 (幸町地区)

○第七十一回仙台市推進委員会民間協力功労表彰者

- 仲嶋 一雄 様 (宮城野地区)
- 佐々木 剛一 様 (鶴ヶ谷地区)
- 遠藤 節子 様 (幸町地区)

私たちが担当しました

- ▼岩切地区 菅野 澄枝 ▼東仙台地区 米山 裕美
- ▼幸町地区 佐々木真美子 ▼原町地区 千葉 澄子
- ▼榴岡地区 鈴木 良子 ▼高砂地区 郷家 勤
- ▼宮城野地区 櫻澤 洋美 ▼鶴ヶ谷地区 飯田田民子

編集後記

令和元年十二月、新型コロナウイルスの世界的流行が始まりました。二年が経過し、三密の回避、手洗い消毒、マスクの着用等の感染拡大予防対策が定着しています。有効とされる二回のワクチン接種率が70%を超えて、事態の収束に向けて各々が努力を続けています。

このような状況の中、未来を信じ、地域のつながりを絶つまいと活動された皆様の声を今号でご紹介しています。どんな時にも社会を明るく照らして下さった皆様に心から感謝申し上げます。

(社明岩切地区推進委員会委員 菅野澄枝)